

座学と演習で学ぶカイゼン活動セミナー

DXの時代に重要度を増す現場改善 ムダ取りのためのIEの基本原則と改善の着眼点を学ぶ

定員30名

参加費無料

6/23締切

日時

2026年6月30日（火） 9時30分～16時30分

場所

兵庫県立工業技術センター
技術交流館 2階セミナー室
神戸市須磨区行平町3丁目1-12
(JR鷹取駅より徒歩10分)

講師

大阪工業大学 情報科学部
データサイエンス学科
教授 皆川 健多郎 氏



対象

兵庫県内のものづくり企業の経営者、製造部門、生産技術の方
特に現場の改善推進担当者、リーダー候補、作業者などでIE（インダストリアル・エンジニアリング）を初めて学ぶ方

～レゴブロックによる模擬生産演習～



申込み



申込多数の場合、1社あたりの参加者数を制限する他、以下の優先度で参加者の調整を行います。
また早期に受付を締切の場合があります。

優先順位：神戸市内の製造業＞兵庫県内の製造業＞神戸市内のその他企業＞兵庫県内のその他企業＞その他

【主催】神戸市、公益財団法人新産業創造研究機構

お問い合わせ

(公財) 新産業創造研究機構 技術支援部門 担当：玉垣、堀部

TEL : 078-306-6806 e-mail : smart-m@niro.or.jp

■開催趣旨

IoTなどDX（デジタル技術活用）がものづくりの生産性を高める魔法のように語られています。確かにIoTは、生産現場の課題を洗い出す「見える化」のツールとしては強力ですが、最終的に現場の「カイゼン」につなげない限りは、生産性の向上は達成できません。

このような中、カイゼンの基本であるIE(インダストリアル・エンジニアリング：ムダ取りのための手法・着眼点)の重要性が近年、改めて見直されています。改善対象である現場の課題を把握するためには、IEの各手法を使うことも必要ですが、まず、「IEの基本原則」と「改善の着眼点」を知ることが重要となります。

本講習では、参加者が自社に戻って、現場カイゼンに着手するきっかけとなるよう、座学とレゴブロックによるミニカーの組立演習を通じて、改善活動を進める上でのIEの基本原則とムダ取りの着眼点を分かりやすく解説いたします。

■カリキュラム

1. IE(インダストリアル・エンジニアリング) の基礎
 - ① 「IE」とは？
 - ② ムダの概念（ムダ作業の層別）
 - ③ ECRSの原則（改善の着眼点・順序）
 - ④ 動作経済の原則
 - ⑤ 5S
2. 演習（動作改善）
 - ① 動作のムダの着眼とそのカイゼン
 - ② ベストポジション
 - ③ レゴブロックによる組立演習
3. グループ討議と発表
4. ラインバランシング
 - ① ロット生産と1個流し生産のメリットとデメリット
 - ② ラインバランス
 - ③ 流れ改善の進め方
5. 演習（流れ改善）
 - ① 現状の測定（バランス効率）
 - ② カイゼン案の検討（バランス効率の向上）
 - ③ 儲かるライン構築（省人化、少人化）
6. グループ討議と発表
7. まとめ